



きれいな川を次世代へ川の国埼玉 川の再生交流会を開催

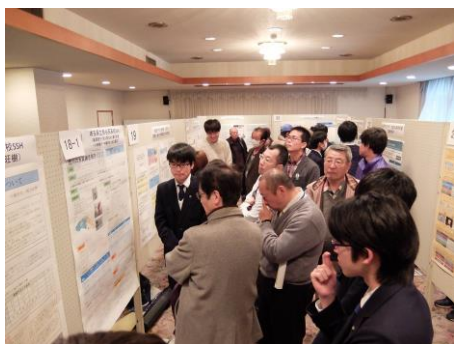


埼玉県のマスコット
「コバトン」

平成30年2月3日(土)、「埼玉市民会館うらわ」において、川の再生活動に取り組んでいる、約400名が一堂に会し、「川の再生交流会」流域でつながる 次世代とつながる」を開催しました。全体会、ポスターセッション、流域分科会の3部構成で開催し、大人から学生、子供まで幅広い世代の皆さんに参加いただき、活発な交流が行われました。

第1部：全体会は、川の環境の変遷についての基調講演と、2団体の活動報告

「川の環境の変遷―時代と共に川とそこの生き物はどう変化したか―」と題し、埼玉大学大学院の浅枝隆教授にご講演いただきました。また、川の国応援団登録団体の「もりんど」山本悦男会長から、次世代に川の魅力を伝える「もりんどの川遊びイベント」、また、飯能市エコツアーリズム推進協議会平井純子会長から、「サトムスメが挑戦！」の川資源を活用したエコツアー」と題し、活動をご紹介いただきました。



ポスターセッション会場(上4枚)と分科会(下)の様子

第2部：新企画「ポスターセッション」を開催！ 対話で、流域、世代間のつながりが深まりました

今年度の新企画「ポスターセッション」では、川で活動する皆さんが普段の活動を展示し、見学者とじかに対話を行う時間を設けました。川の国応援団や、高校、大学など43団体がポスターを展示しました。展示内容は、普段の活動やイベントの報告、地域の川の植物や生き物の写真、学生からは研究報告など、幅広い分野にわたりました。展示会場は、展示物で大変にぎわいました。「世代を越えた交流ができた」「若い研究者と話ができて大変良かった」などの声をいただきました。

第3部：分科会は、河川・地域ごとの5分科会と、「川×学生分科会」の6会場で開催

第1～第5分科会では、各地域の団体の企画・進行で、川をもっと魅力的にするためにそれぞれテーマを設定し、互いに考えや活動を紹介し話し合いました。また、第6分科会は「川×学生分科会」 Think of river 川への想いを語ろう」と題し、県内外の川の研究や活動に取り組む、中、高、大学生71名が集い、県内の将来の水環境について発表やディスカッションを行いました。

☆分科会の報告やアンケート集計結果など、交流会の詳細をまとめた「川の再生交流会報告書」もご覧ください。
HPでも公開しています。→<http://www.pref.saitama.lg.jp/a0505/h29kouryuukai.html>

会員のひろば



～637団体が県内各地で活動中！～

29年度は、40団体が川の国応援団に新たに登録されました！今回は、新規2団体からの報告をご紹介します。

認定特定非営利活動法人

水のフォルム

さいたま市(29年6月登録)

「水の環、人の環、生き物の環」

藤原悌子

21世紀は“水の世紀”と言われていますが、地球上の水は時間・空間で偏在するため、世界では様々な水問題が起きています。

水道の蛇口をひねればいつでも水が手に入るため、水道水ができるしくみも、流域内の水が山から海までつながっていることも私たちは忘れて暮らしています。我々の生活が水を通じて自然にどのようにに負荷を与えているのかもきちんと理解していません。

自分の足元の水、暮らしの場のある流域の水から学びたい、“都市と農村、市民と企業と行政が一緒になって総合的に学ぶ場”がほ

しい、その想いから“水の広場”を意味する「水のフォルム」が生まれました。

まず、身近な利根川・荒川流域の水を中心に、水に関わる様々な情報を発信し、垣根を越えて集い、学び、考える“水の広場”を創り出します。いつかこの“水の広場”が、21世紀の水の在り方を方向づける場になることを期待して。

主な活動としては、情報誌の発行(年1回)と、「流域の健やかな水ネットワーク保全」を目的にした見沼田んぼでの里地・里山(田んぼ・平地林)の保全活動があります。

見沼田んぼの水は、群馬県の大水上山に始まる利根川―見沼代用水―見沼田んぼ―芝川―荒川―東京湾とつながっています。

田んぼが一つ消えれば「水みち」はそこで終わってしまします。農業用水や河川の水質汚濁の問題もあります。肥料

や下水処理水に含まれる窒素やりんは芝川のヘドロや東京湾の赤潮・青潮の原因となり、その他、農薬の問題もあります。



水のフォルムでは自然にやさしい日本古来の循環型伝統農法による米作りを通じて水ネットワーク保全のため活動しています。

子供つり体験実行委員会

入間市(29年4月登録)

「入間川子供つり体験教室」

平岡憲勝

10年ほど前からつり人の減少が見られ、特に河原に遊びに来る子供を見なくなりました。

子供達に早い時期から、自然環境の大切さ、釣りの楽しさを知って貰う為に子供つり教室を入間市観光協会・入間漁業協同組合の後援を受けて開いております。

4月16日入間市西武公民館前で第6回ニジマス子供つり体験教室が、入間市田中市長様、埼玉県斉藤県議会議員様をお迎えし盛大に開かれました。

参加者は市の広報紙・立て看板・釣具店などで小学生対象で50名の募集を行ったところ、参加申し込み数が92名もあり保護者・役員含め総勢200名で行いました。

最初はフラフープを並べ、4メートル離れた所より釣り竿をもつ

て打ち込みの練習を行いその後ニジマスの放流してある(網を張った区域)8か所で指導員が付き添い安全につりを行ないました。

ニジマスを釣る時の真剣な顔、そして釣れた時の喜んだ姿は素晴らしいかったです。

一方、保護者は釣った魚をビニール袋や、クーラーボックスに入れるのに大忙しでした。

最後は釣り指導員が大きなたらい8か所にニジマスを入れてから手づかみ体験です。

最初はニジマスをつかめなかった子供も2尾目は大歓声で『取ったぞー!!』

一人数尾を捕まえて満面の笑顔で楽しんでいただきました。

市観光協会の守屋さんからは『入間川等の入間市の観光資源の活用を図るためにもこの子供つり体験(教室)を支援していきたいと考えています。』とのお話をいただいています。

他にも 子供つり体験実行委員会では自然環境を大切に考えて、年数回河川清掃を行っています。



川の国アドバイザー 制度のご紹介

県では、川での経験が豊富で、川の国埼玉検定(上級編)に合格された方に、「川の国アドバイザー」へご登録いただいています。川の国アドバイザーはそれぞれの得意分野を活かし、皆さんの活動を支援します！

アドバイザーさん インタビュー

川の国アドバイザーを紹介する新コーナーです。初回は、今年1月に登録いただいた横山さんにお話を伺いました。

■好きなのは「魚捕り」!

現在大学3年生、工学部でプログラミングを学んでいるという横山さん。川に親しむようになったきっかけは数々の自然体験イベントへの参加だったそうです。「小学生のころから、『見沼自然の家』での子供自然クラブや、高麗川の魚捕りなどに参加していました。特に魚捕りは、回を重ねるごとに上達して楽しくなりました。」今では、魚捕り技術はさることながら、捕った魚の種類は、



ほぼわかるのと、ちなみに、「虫捕りも好きです。」

こと自体に醍醐味があるそうので、捕まえた後は自然に返してあげます。

■遊んだ経験が川を大切に作る気持ちにつながる

横山さんの目線から、埼玉の川について思うことは? 「今、綾瀬川の遊歩道のプロジェクトが進んでいます。行政、団体、住民で話し合い方針を決めるのは良い試みだと思う。」将来の川については、「子供のころ、自然や生き物のいる川で楽しく遊んだ経験があると、将来『川を大切にしたい』という気持ちが持てると思う。経験がないと、どんな川にしたいという思いも出てこない。」

■子供達に魚捕りの楽しさ伝える

現在は、ボランティアでイベント等へ参加している横山さん。「川の国アドバイザーとして、子供達に魚捕りや虫捕りなど、自然体験を教えたい。」横山さんと魚捕りしたい方は、是非ご連絡ください!

派遣事例

アドバイザー派遣制度をご利用いただいた、杉戸町立高野台小学校からのご紹介を紹介します!

「川の国アドバイザーから古利根の自然と歴史を学ぶ」

杉戸町立高野台小学校

5月12日(金) 杉戸町立高野台小学校では、4年生の児童が総合的な学習で身の回りの自然環境について、個人の課題設定をするため、杉戸の自然と歴史に詳しい坂本先生に来ていただきました。

地域を巡る前に基礎的な知識やデータを通し、現状や問題点を知ること、地域の自然環境への関心や理解を深めるとともに、地域の自然環境と自分とのかかわりについて考えることができました。

まず、利根川の変遷から古利根の由来を知り、その後水源となる葛西用水の水利用や水量、五感に



よる川の好感度チェックを行いました。さらに、学校近辺の川から採取した水をCODパックテストで水質検査をし、水の汚れをデータで実感しました。汚れた川の水の中にもたくさんの生物が生きていることも知り、地球上で人間が利用できる水が1パーセントにも満たないことに驚いていました。現実を知り、実験や体験を通して、子供たちは問題意識と疑問を持ち、自分たちで課題設定をすることができました。

★派遣希望の方は↓

水環境課に、希望の支援内容をご連絡ください。ふさわしい方を紹介します。その後、アドバイザーと直接調整ください。派遣料は一切かかりません。

☆登録アドバイザー104名の一覧と得意分野はHPで確認できます↓「川の国アドバイザー」で検索!

川の再生ボランティア体験 講座のご報告

平成30年3月10日(土)13時〜15時30分、志木市の柳瀬川で「川の再生ボランティア体験講座」を開催しました。

この講座は、ボランティアに興味のある県民の方を対象に、川でボランティアを体験してもらう、新企画です。

川の国応援団登録団体と水環境課との共催で、地域の川についての講座や自然観察と併せ、実際にゴミ拾いや水質調査等を行います。

■NPO法人エコシティ志木との共催

今回は、志木市の柳瀬川で活動中のNPO法人エコシティ志木との協力で開催しました。

エコシティ志木は、年間を通して、柳瀬川の河川敷やいろは親水公園などのゴミ拾いや、斜面林の手入れ、外来植物駆除を行っています。また、「志木の生き物調査」「柳瀬川ぶらり散歩」など、調査活動や自然観察イベントも数多く開催しています。

一般の方も参加可能で、オープンな活動をされている団体です。

2月の川の再生交流会では、柳瀬川の自然や生き物についてポスターを展示しました。



川の再生交流会での天田さん(左)と青木さん(右)

■柳瀬川を学び、河川敷をゴミ拾い

講座当日は、第一部「川を学ぶ」、第二部「ボランティア体験・自然観察」の2部構成で開催しました。参加者は23名で、大人、子供(10歳以下も4名!)が志木中学校の視聴覚室に集まりました。

第一部では、代表理事の天田さんが「柳瀬川ってどんな川?」と題し、柳瀬川の源流から支流までの概要や特徴を説明しました。次に、事務局長の青木さんが、柳瀬川周辺の植物や生き物を紹介しました。カワセミやサギ、イタチやタヌキまで観察されることで、動物たちの生き活きた写真に、受講者からは驚きの声が上がりました。最後に、最近会員になった庭野さんが、ボランティアに参加する魅力を話しました。

講座の後は、河川敷に降りゴミ拾いをしました。前日は雨でしたが、見事に晴れ、皆で歩きながら楽しくゴミを拾い、大きなゴミ袋3袋分のゴミが集まりました。足元には、オオイヌノフグリやホトケノザなどの花も見られ、春の訪れを感じられました。



川の国応援団イベント 年間スケジュール

川の国応援団登録団体へご案内する平成30年度のイベント実施予定です。今後変更となる可能性もありますので、実施時期の1〜2か月前にお送りするご案内でご確認ください。ふるってご参加ください!

平成30年	6〜9月	全国水生生物調査(環境省主催)
	7月	水生生物講座
	7〜9月	川ガキイベント
	11月	(4月下旬募集開始)
	11月	川の国埼玉検定(中・上級編)
平成31年	2月2日	川の再生交流会
	☆時期未定	各地域管内会議
		ボランティア体験講座

発行 埼玉県環境部水環境課

住所: 〒330-9301 さいたま市浦和区高砂3-15-1 (第3庁舎1階)
TEL: 048-830-3088
FAX: 048-830-4773
E-mail: a3070-03@pref.saitama.lg.jp

- ☆活動予定や活動報告などをお寄せください。
- ☆資材の提供や貸出し等のご希望があればご相談ください。
- ☆連絡先等の変更があればご連絡ください。
- ☆団体のHPへのリンクを水環境課HPへ掲載可能です。ご希望の際はご連絡ください。
- ☆川の国応援団のHP
<http://www.pref.saitama.lg.jp/a0505/kawanokuniouendan/index.html>

